

やじ問題など議論

超党派50地方議員が勉強会

市議会棟

超党派の地方議員でつくる「ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟」による勉強会が16日、中央区の市議会棟で開かれ、県内を中心とする地方議員約50人が参加した。セクハラやじや政務活動費などの問題で地方議会への信頼が低下する中、パネルディスカッションやワークショップなどを通じて、地方議会の今後のあり方を考えた。

同連盟は目的達成型の政治を推進する趣旨に賛同する地方議員約500人が所属。統一地方選を来春に控え、地方議会の存在意義を再度問い直すこと、勉強会を企画した。パネルディスカッションは、早大マニフェスト研究

所の北川正恭所長がコーディネーターとなり、市を代表して熊谷俊人市長、市議会を代表して小川智之市議、市民の立場から秋元裕子千葉青年会議所元理事長がそれぞれパネリストとして参加した。やじ問題について熊谷氏

は「本会議は議論の場ではなく、主張をする場。かんかんがくがくの討論をする場は常任委員会などがある」とし、本会議での不規則発言に否定的な立場。一方、小川氏は「千葉市議会ではやじが少ない」と前置きした上で、「議事に沿った発言以外の全てが不規則発言とは思わない。議場の空気を醸成する発言となることもある」と述べた。

秋元氏はセクハラやじについて「先生と呼ばれる方が、それを発言していいかどうかを判断できずに発言してしまうことが問題。その先生を選んだ私たちが有権者にも責任がある」とした。

ワークショップでは各議員が所属する議会について、「機能強化」「情報公

開」「住民参加」の各分野での達成度を診断シートを使って点検。診断結果の発表会では「地方議会は首長の下部組織ではないのに、提出議案を否決するケースが少ない。チェック機関の役割を果たしていく必要がある」などの意見が出た。勉強会は今回が第1回で、今後、神奈川県議会、さいたま市議会などでも開催する。

稲毛海浜プール 19日にオープン

海水浴場開きも 美浜区の稲毛海浜公園が



地方議会のあり方について議論が繰り広げられたパネルディスカッション＝16日、市議会棟本会議場

緑区のホキ美術館は写真絵画の公募展「第2回ホキ美術館大賞」の作品を募集している。同賞は日本初の写真絵画専門美術館として2010年に開館した同館が、新人画家を発掘し、写真絵画発展を目指す3年に1回開催。8月29日から4日間、応募予定の画家を対象にしたアートスクールを開講する。応募資格は40歳以下(2016年3月31日時点)で、所属団体、国籍、プロアマ不問。

新進写真画家の作品募集

細密に描かれた写真、平面絵画で、油彩とアクリルのみ。50〜100号のサイズの部がある。他、展覧に出展されていない

ホキ美術館

が対象。昨年の第1回から116点の応募が56点が入選作に選ばれ、受け付けは2016年4日まで、応募する場合はメール(hoki@hoki-art.com)

未成年
千葉駅
県内た
未成年者
間(7月
葉県た
合会(井
R千葉
「未成年
ベント」
の喫煙防



皆さまからの情報提供
お待ちしております
E-mail: c-nippo@chibanippo.co.jp
編集 集 信
TEL 043(222)9211
FAX 043(224)7011
総務 局
TEL 043(222)9211
FAX 043(227)0111
販 売
TEL 043(227)0111
FAX 043(222)7011
広 告
TEL 043(227)0111
FAX 043(227)0111